

平成30年度大学評価 淑徳大学 事例報告

大学基準協会 平成31年度実務説明会
平成31年4月16日 於：武庫川女子大学



淑徳大学は（公財）大学基準協会による大学基準への適合認定を受けています

本日の内容

- 1 内部質保証システムの構築 (小笠原)
- 2 改善事例 (小笠原)
- 3 大学評価受審スケジュール と学内分担 (金 澤)
- 4 評価資料の作成について (金 澤)

(H p.37) = 「大学評価ハンドブック(2019(平成31)年改訂)」 37ページへの参照を表す

淑徳大学について

1965(昭和40)年開設、6学部11学科、2研究科3専攻

学生:4,778人 専任教員:161人 専任職員:96人

千葉キャンパス

総合福祉学部

コミュニティ政策学部

総合福祉研究科

社会福祉学科 / 教育福祉学科 / 実践心理学科

コミュニティ政策学科

社会福祉学専攻 / 心理学専攻

千葉第二キャンパス

看護栄養学部

看護学研究科

看護学科 / 栄養学科

看護学専攻

埼玉キャンパス

経営学部

教育学部

経営学科 / 観光経営学科

こども教育学科

東京キャンパス

人文学部

歴史学科 / 表現学科

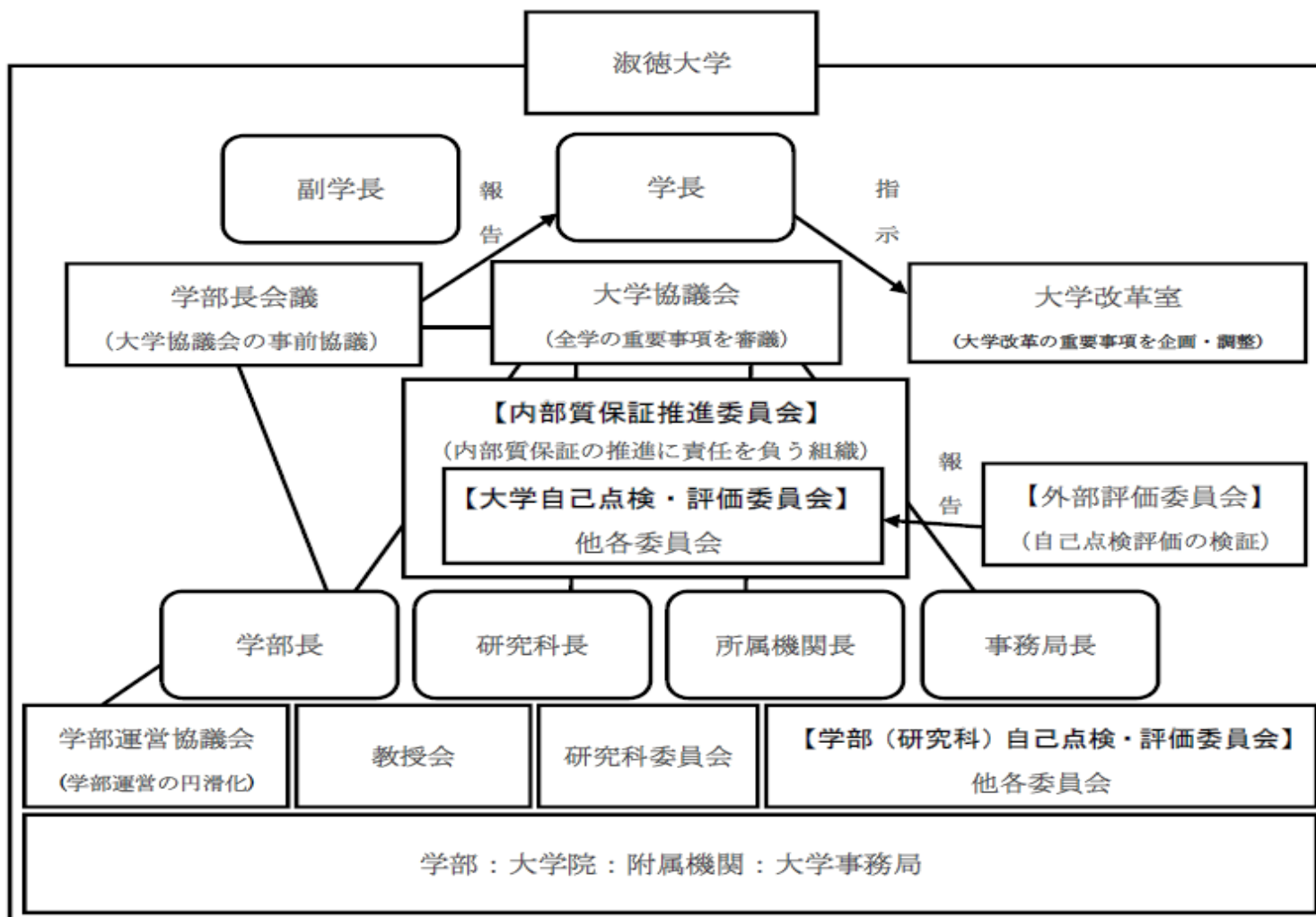
1 内部質保証システムの構築

1-1 淑徳大学の大学評価

- 1991(平成3)年 大学設置基準改正 (大綱化⇒自己点検・評価の努力義務化)
- 1999(平成11)年 大学設置基準改正 (点検・評価結果公表義務化,学外者の検証努力義務化)
- ◎1999(平成11)年 大学基準協会 大学評価(加盟判定審査)→ 大学基準適合(正会員登録)
- 2002(平成14)年 学校教育法改正 (自己点検・評価の実施と認証評価の受審義務化)
- ◎2004(平成16)年 第1期 認証評価 (自己点検・評価の実質化を目指す評価)
- 大学基準協会 大学評価→ 大学基準適合(2005.4～2012.3)
- ◎2011(平成23)年 第2期 認証評価 (内部質保証システムの構築を目指す評価)
- 大学基準協会 大学評価→ 大学基準適合(2012.4～2019.3)
- ◎2018(平成30)年 第3期 認証評価 (内部質保証システムの有効性に着目する評価)
- 大学基準協会 大学評価 → 大学基準適合(2019.4～2026.3)

1-2 ガバナンス体制

淑徳大学ガバナンス体制



内部質保証の目的

建学の精神に立脚した本学の理念・目的をふまえた、・・・教育研究活動等の質保証を支える学内諸制度・諸事業の健全かつ効率的な運用の確立を図ることによって、・・・高等教育機関としての社会的責務を果たすとともに広く社会に貢献する。

内部質保証の推進体制と自己点検・評価活動

1. 内部質保証推進委員会の設置
2. 学内組織は、年度末に自己点検・評価結果を内部質保証推進委員会に提出
3. 「2」により明らかになった課題の対応策策定と実施
4. 法令遵守、評価機関等からの指摘事項への対応
5. 内部質保証システムの適切性を検証するため外部評価委員会を設ける

1-4 淑徳大学の自己点検・評価活動

- ①教育研究活動計画書および報告書 (学部長)
- ②授業に関するアンケート調査 (学部教育向上委員会)
- ③学生生活実態調査 (第〇回学生生活実態調査委員会)
- ④委員会活動計画書および報告書 (学部自己点検・評価委員会)
- ⑤教育・研究・管理運営等に関する目標・成果指標(Shukutoku Outcome) (学部長)

『淑徳大学年報』の刊行(①～⑤を集約して作成)

刊行の目的:PDCAサイクルを用いた自己点検・評価結果を公表する

第1部 年間の各取組みへの点検・評価および次年度への課題(平成29年度年報83項目)

第2部 関連資料・データ (大学基準協会 大学基礎データの形式に準ずる)

【次年度に向けた課題】 → 1 Action Plan → 2 Plan → 3 Do → 4 Check → 5 Action
(前年度Action)

(次頁例参照:淑徳大学年報 2017(平成29)年度 看護栄養学部 「社会貢献」)

6 社会貢献〔地域連携委員会〕

関連委員会	地域連携委員会
関連部署	事務局、地域連携センター、地域支援ボランティアセンター
関連データ	2017年度淑徳大学看護栄養学部「ボランティア講座・地域連携事業報告書」

平成28年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- (1) 地域との連携強化をはかる。
 - ア 松ヶ丘地区との協働連携事業を継続する。
 - イ 千葉市あんしんケアセンター松ヶ丘との連携を進める。
 - ウ 学生・教員と地域住民との交流の機会を増やし、相互理解を進める。
- (2) ボランティア講座登録学生の60%を修了に導くとともに、講座のあり方についての検討に着手する。
- (3) 教職員・学生・地域住民間において、地域連携に関する情報共有・発信を進める。

1 平成29年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) **成果指標** 地域との連携強化をはかる。
 - ア 松ヶ丘地区との連携協働事業を継続する。
 - イ 千葉市あんしんケアセンター松ヶ丘との連携を強化する。
 - ウ 地域活動への学生・教員の計画的な参加、相互理解を進める。
- (2) **成果指標** ボランティア講座登録学生の60%を修了に導く。
- (3) 本学における地域連携活動の情報共有・発信により地域との関係性を強化していく。
- (4) **成果指標** 高齢者介護予防に関する地域課題解決のためのアクションリサーチを進める。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 地域との連携強化をはかる。
 - ア 松ヶ丘地区地域ふれあい広場「ひだまり」における健康・栄養講話、健康相談（毎月2回）、千葉市あんしんケアセンター松ヶ丘における健康講話を年2回実施する。
 - イ 松ヶ丘地区および近隣病院・施設からの学生ボランティアの要請にこたえる。
 - ウ 地域における各種定例会議（松ヶ丘中学校区運営会議など年25回）へ出席する。
- (2) ボランティア講座登録学生の60%を修了に導く。
 - ア ボランティア講座受講学生の興味・関心に応じた参加の支援、受け入れ先との連絡・調整により円滑な実践・修了につなげる。
 - イ ボランティア講座の成果発表および本学の広報活動としての報告書を作成する。
- (3) 本学における地域連携活動の情報共有・発信により地域との関係を強化していく。
 - ア 教職員による地域住民・施設の協力を得た教育・研究活動の実施状況を把握する。
 - イ 松ヶ丘中学校区地域運営委員会HP等で本学の地域連携活動の周知・広報を行う。
- (4) 高齢者介護予防に関する地域課題解決のためのアクションリサーチを進める。

3 取組状況

DO

- (1) 地域との連携強化に関しては、教員による健康講話を計画通り実施した。学生ボランティアに関しては、ボランティア講座受講生以外の学生にも呼びかけ、参加があった。地域における各種定例会議（松ヶ丘中学校区運営会議など年間25回）へは積極的に出席したほか、学生ボランティア実践には可能な限り教員の引率をし、関係づくりにつとめた。
- (2) ボランティア講座に関しては、修了率は49%（32/65名）であった。なお、ボランティア講

座報告書を3月に発刊し、学生、教員、近隣施設に配付した。

- (3) 地域住民等の協力を得た教員の活動実施状況を年度当初に把握し、周知した。また、本学部の取組みは、千葉テレビと大学新聞で取り上げられた（2月）。
- (4) ボランティア講座リピーター学生への対応・支援のあり方を検討する資料を収集したほか、地域に保管されている非常食の有効活用に関する提案を行った。
- (5) 地方自治体、企業等との連携による社会貢献の事業数はこれまでの事業（3事業）を継続したほか、千葉市のノリ組合や千葉市加曽利貝塚における縄文期の食研究など8件の実施であった。委員会組織として認知症カフェ事業・研究の立ち上げ・実施に関与した。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 教員による地域貢献活動は、本学の教育研究活動への協力をいただくことにもつながり、「Win-Win」の関係が構築されているととらえている。また、学生のボランティア実践は本学の建学の精神を具現化することにつながっている。
- (2) ボランティア講座は学生のボランティア活動へのきっかけ作りとして有効であったが、必修授業の多さで辞退した登録学生もいた。地域からは学生の力が期待されており、メディアにも取り上げて頂いたが、実際には需給バランスの課題がある。
- (3) 数値評価としては、教員による地域での健康講話、自治体・企業との連携事業件数は目標を達成し、地域における各種定例会議、ボランティア実践の引率も90%の実施率であったが、ボランティア講座受講修了率に関しては当初目標の60%に届かなかった。
- (4) 委員会活動評価としては80点とする。教員による地域貢献活動に対して、学生ボランティア要請の期待に十分応えられているとは言えない。また、ボランティア講座での活動の引率、地域における各種会議への出席など各委員の土日勤務が多い。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 松ヶ丘地区との連携は今後も引き続き行い、地域貢献を進めていく。
- (2) ボランティア講座のあり方、リピーター学生への教育については引き続き検討する。具体的には必修科目の多い本学で単位化されないボランティア講座を学部教育としてどのように位置づけるのか、今一度検討する必要がある。
- (3) 委員の土日出勤が多く、軽減策を検討していく必要がある。
- (4) 自治体・企業との連携事業は相手先の事情等で必ずしも安定しているとはいえず、年度による取り組み件数に差が生じることが見込まれている。地域のニーズの発掘、アウトリーチについて、委員会と各研究を推進する教員とでの協議・検討の場の必要性について考えていく。

2 改善事例

- ①「淑徳大学ヴィジョン；共生社会の創出をめざして－継続と改革」の制定
- ②「教育・研究・管理運営等に関する目標・成果指標」の制定
- ③教育目標、3ポリシーの再整備
- ④自己点検・評価委員会規程の改訂、外部評価委員会及び内部質保証推進委員会の設置
- ⑤「淑徳大学年報」の刷新

内部質保証の目的:教育の充実と学習成果の向上

→ ここがポイント

第1期 認証評価 [3 教育内容・方法]

大学は、十分な教育上の成果をあげるための**教育内容と方法**
を整えなければならない。

第1期：教育内容と方法を整える
第2期：ポリシーに基づく学位授与
第3期：学習成果を把握し、評価し
改善につなげる

第2期 認証評価 [4 教育内容・方法・成果]

大学は、その理念・目的を実現するために、教育目標を定め、それに基づき**学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を明示**し(中略)・・・、十分な教育上の成果を上げるための教育内容と方法を整備・充実させ、**学位授与を適切に行わ**なければならない。

第3期 認証評価 [4 教育課程・学習成果] (H p.98)

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表し(中略)・・・、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、**学位授与方針に則した学習成果の習得状況を把握し評価**しなければならない。

学習成果の把握

評価・改善

アセスメントプラン

- 平成24～28年度 文部科学省 大学間連携共同教育推進事業採択「主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築」（関西国際大学、北陸学院大学、くらしき作陽大学、淑徳大学）
- 平成25年度 アセスメントポリシー（学生の学修成果を測定し、蓄積し、改善する取り組みに関する方針）と アセスメントプラン（アセスメントの具体的な方法、実施時期等の計画）を策定
- 平成29年度～ アセスメントプラン再構築中（高等教育研究開発センター）

ルーブリック

- 学士カールーブリック — **全学共通、セメスター毎にリフレクションを実施する、DP連動**
平成26年度作成、平成27年度試行、平成28年度改定
教育福祉学科では、「履修カルテ」と「学士カールーブリック」を統合し、
「学生ポートフォリオ」として運用している。
- 教室外プログラムルーブリック — 平成25年度～
学部FD等でルーブリックを研究し、開発・試行・運用している。

アセスメント活動

実施主体 (もしくは実施対象)	教学マネジメント(PDCAサイクル)	具体的な測定方法	評価・改善活動
大学全体	自己点検評価と第三者評価（認証評価） [指標] 淑徳大学ビジョン、淑徳大学教育目的	- 教員向けアンケート - 学生向けアンケート（授業評価、授業以外学習時間調査） - 学生の学修成果の測定に基づいた全学的な学修成果のアセスメント - 学生支援型IRの活用 等	○評価活動 - 大学自己点検・評価委員会（全学的なIR体制も必要） ○改善活動 - 全学FD研修会による組織的な取り組み（大学FD委員会、高等教育開発研究センター）
学部・学科	3か年目標・成果の評価 [指標] 学部、学科の教育目的	- 各委員会の目標管理評価制度 - 教員の目標管理評価制度 - 学生の学修成果の測定に基づいた学部・学科レベルの学修成果のアセスメント - 学生支援型IRの活用 等	○評価活動 - 各学部の自己点検・評価委員会 ○改善活動 - FD研修会による組織的な取り組み（各学部のFD委員会） - 各委員会での自己点検評価
学生個人	学修成果に関わるアセスメントプラン [指標] 淑徳大学の教育目標、学位授与方針(DP)、淑徳大学が保証する能力の内容、各学部の教育目標、学位授与方針(DP)	- 複合的、重層的なアセスメントツールを活用した学修成果の総括的評価と形成的評価(GPA、ルーブリック、到達度テスト、学修適応度調査、アンケート、インタビュー、e-ポートフォリオ) - 学生支援型IR	○評価活動 - 成績、ルーブリック等を活用した直接的評価とアンケート等による間接的評価 ○改善活動 - リフレクション(振り返り)の機会設け、アドバイザーとの面談、自発的な目標設定の促進

学士カールブリック — DPの把握・評価のためのツール —

DP:どのような資質・能力を修得した学生に学位を授与するか → PDCAの起点

淑徳大学卒業認定・学位授与の方針(抜粋)

【1】 社会の構成員としての基本的知識・技能・態度 (全学共通)

(1)コミュニケーション能力及び情報リテラシーを修得している

(2)課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に着けている

(3)人類の文化や社会と自然等に関する広い知識と理解を有している

【2】 専門教育分野における知識・技能・態度 (学位授与課程毎)

【学士力 参考指針】

- ①知識・理解
- ②汎用的技能
- ③態度・志向性
- ④総合的な学習経験と創造的思考力

(「学士課程教育の構築に向けて」平成20年中教審)

学士カールブリック(抜粋)

中項目	淑徳大学が保証する能力の内容	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。	自ら現実の問題を発見・提起し、それに関する情報を収集・分析・整理し、妥当な解決策を立案し、実際に計画的に、そして修正を加えながら解決策を実行できる。	自ら現実の問題を発見・提起し、それに関する情報を収集・分析・整理し、妥当な解決策を立案できる。	与えられた問題に対して、自らそれに関する情報を収集・分析・整理し、解決策を立案し実行できる。	与えられた問題に対して、解決策を立案できる。
自己管理能力・倫理観	自らを律して行動でき、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動することができる。	社会の規範やルールだけでなく、自己の良心に従って能動的に行動できる。	社会の規範やルールを理解し、人としてふさわしい行動をとることができる。	他者を思いやり、迷惑をかけない行動をとることができる。	他者との価値観の違いに気づき、善悪の判断がつく。
論理的思考力	情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。	対立する複数の主張について、客観的な事実に基づき、批判的、多面的に検証を行うことができる。	客観的な事実に基づき、矛盾や飛躍なく理由を説明しながら、原因から結論に至ることができる。	客観的な事実を根拠として結論を主張できる。	客観的な事実を正確に認識できる。

淑徳大学 総合福祉学部

教育福祉学科

学生ポートフォリオ

学籍番号			
氏 名			
連絡用アドレス			
取得希望 免許	☒ 保育士	☒ 幼稚園	☒ 小学校
	☒ 中高保体	☒ 特別支援	☒ 養護

		前期 確認日	後期 確認日
1年 教職体験研究	先生		
2年 カレッジアワー	先生		
3年 専門研究ゼミ	先生		
4年 専門研究ゼミ	先生		

学生ポートフォリオについて

1. 目的

教育福祉学科では、次のふたつの目的をもって、「学生ポートフォリオ」を運用していきます。

(1)PDCAサイクルの活性化

ひとつ目は、P(plan)D(do)C(check)A(action)サイクルの活性化です。大学入学時、みなさんは、それぞれ卒業後を見越して、4年間で達成したい目標をもって入学してきましたね。その目標を実現するためには、計画を立て、実行にうつす必要があります。計画は、1日や1週間という短期間のものもあれば、1年あるいは4年間という長期にわたるばあいもあるでしょう。そして実行にうつした後は、その結果を振り返り、反省点を踏まえて、次の行動を起こしていきます。このことを意識的に行うことで、その時その時点での目標を見失わずに何事にも前向きに取り組むことができ、成果を得ることにつながります。

(2)学修成果の確認

大学の講義を受けた後には、それぞれの科目ごとに、成績評価を受けることになります。しかし、本当の意味での学修成果は、それだけではかることはできません。各科目で学んだ知識や技能が、他の科目と関連づけられて、さらに深い理解を得られたり、正課外科目やボランティア活動、サークル活動などの場で、実践力や考える力が育まれたりしていきます。むしろ、こうした相互作用の中で培われた力の方が、個々の成績にましてより重要だとも言えるでしょう。したがって、そうしたみなさんの成果を確認し、教員と共有することを、この「学生ポートフォリオ」のふたつ目の目的として置いています。なおかつ、学科としても、把握した成果を、みなさんの大学生活における学びの質をよりいっそう高める教育創りの材料としていきたいと考えています。

なお、学士力や教育福祉学科としての専門性がどのようなもので、何の科目が基盤となっているのかについては、シラバスや教育福祉学科カリキュラムマトリックスで確認することができます。適宜参照してください。

また、このポートフォリオは「教職履修カルテ」を兼ねています。4年次後期の「教職実践演習」(必修)を履修し、教員免許を取得するためには特に丁寧に記載することが求められます。

2.運用方法

日常的に、さまざまな活動の記録を手元に残すようにしましょう。そして、随時、この「学生ポートフォリオ」に振り返ったことを記入しておきます。その上で、半期に一度、教員と内容の確認を行っていきます。大切な記録ですから、ボールペン等で丁寧に書くようにしましょう。

電子ファイルで運用する場合にはデータの消失等がないよう、こまめにファイルのバックアップを取るようになしてください。

淑徳大学ビジョンの達成度を可視化(数値化)する

大学成果指標(教育課程・教育組織・学生支援・就業支援・研究活動・社会貢献・定員管理)

学部成果指標(上記区分内で31項目、3年1クールで設定) (Shukutoku outcome)

■ 教育学部

大項目	成果指標	教育学部		教育学部	
		3カ年の到達目標	平成 29 年度	平成 29 年度	
			活動方針・目標		点検・評価
教育課程	学生の授業外学習時間調査	[授業時間以外の学習時間] 授業 1 回平均 3 時間以上：20% 増（H28 年度実績からの 3 ヶ年増 加率）	学内の授業外学習時間 1 日平均 1.5 時間以上 7 % 増 学外の授業外学習時間 1 日平均 1.5 時間以上 7 % 増	・ 9 月全教員会の教育学部分科会で、各教員に対し、シラバスに示されている課題等を学生に課すように依頼を した。29 年度学生授業アンケート結果は、 前学期 授業 1 回平均 3 時間以上 10.0% 後学期 授業 1 回平均 3 時間以上 10.7% H28 年度実績 9.1% から約 1 % 増加し、目標値の 0.65 % 増を達成した。	A
	アクティブラーニング (双方向型) の仕組みを 導入した授業の効果の達 成度	肯定的回答 50% 以上	肯定的回答 30% 以上	・ 9 月全教員会の教育学部分科会で、2 名の専任教員から双方向の授業に関する事例紹介を行い、各教員が後期 の授業において、双方向の授業改善の参考とした。 前学期 肯定的回答 31.5% 後学期 肯定的回答 37.4%	A
	図書館・自習室・ラーニ ングcommons 利用率	①来館者数 10%増 ②貸出数 10%増 ③LC 利用件数 10%増	①来館者数 3 % 増 ②貸出数 3 % 増 ③LC 利用件数 3 % 増	・ 埼玉キャンパス図書館運営委員会が中心となり、全般的に利用施設のサービス向上を図り、利用率等の向上を 図った。また、入門セミナー、専門演習の授業科目の中で、書籍検索や図書を活用した課題等を出してきた。 ① 来館者数 132,643 (昨年 151,659 名) 12.5% 減 ② 貸出数 10,709 (昨年 10,733 件) 0.2% 減 ③ LC 利用件数 7,831 (昨年 10,781 名) 27.4% 減	C
	学位ごとの学習成果におけ る測定指標・取組の検討	卒論発表会の実施	卒論発表会の実施 ・教職実践演習及び学校インターンシップの評価基準作成	・ 卒論発表会（初等教育コース：49 人、幼児教育コース 62 人、合計 111 人）4 教室、2 限～4 限、7 分／人 で 実施した。 ・ 学校インターンシップに関する専門教育に係る知識・技能・態度の評価尺度としてルーブリックを作成した。	A
	授業形態別ルーブリック の実施率	実施率 100%	実施率 80%	・ 卒業論文発表会用ルーブリックを学科会で検討・作成して、すべての教員が卒業発表会に作成したルーブリッ クを使って評価を行った。 実施率 100%（10／10）	A
	授業アンケートにおける 学生向けと教員向けの活 用の比較調査	評価の異なる項目について最低 1 科目検証し、改善を図る	評価の異なる項目について最低 1 科目検証し、改善を図る	2 月の学科会において、学生評価及び教員評価の相違が出た社会科の授業の振り返りを行い、報告書を基に報告 を行った。	B
	学生授業アンケートにお ける到達目標の達成度	肯定的回答 50% 以上	肯定的回答 30% 以上	・ 学生授業アンケート、1－5「シラバスに記載された到達目標の達成」の評価から 肯定的回答 32.6%	A
	自校教育科目の履修者数 と履修率	履修率 50% 以上	履修率 90% 以上	・ 4 月 4 日前期履修指導、9 月 12 日後期履修指導で、1 年次の学生を対象に、学部教務委員が初等教育コース、 幼児教育コースの学生に対してコースごとで自校教育科目に関する履修指導を行い、その後、各ゼミ担当教員 が一人一人の学生の履修内容をチェックし、必要に応じて助言をした。 履修率 116%（127 人／438 人／4）	A

(淑徳大学年報 2017(平成29)年度 教育学部 成果指標)

3 大学評価受審スケジュールと学内分担

3-1 スケジュール（淑徳大学の例）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 認証評価業務準備 | 平成29年4月～5月 |
| 2 自己点検・評価、データ作成 | 平成29年6月～8月 |
| 3 原稿集約、完成 | 平成29年9月～平成30年4月 |
| 4 申請書類提出後対応 | 平成30年4月～平成31年2月 |
| 5 大学評価結果公表後対応 | 平成31年3月～ |

- ・認証評価統括室(職員2名配置)設置・準備
- ・過去の本学の大学評価資料の集約、現在の学内刊行物の収集
- ・平成29年度実務説明会出席
- ・参考書籍購入
(早田幸政、工藤潤[編著]「内部質保証システムと認証評価の新段階」2017.1、エイデル研究所等、認証評価、内部質保証に関連するもの15冊程度)
- ・「大学評価ハンドブック」を読み込み、今後の予定作成
(第3期認証評価概要、「点検・評価報告書」作成マニュアル、日程表、等)
- ・淑徳大学版「評価の視点」検討

日 程	項 目	担当者(対象者)
29年6月2日	「大学基礎データ」 作成依頼	各キャンパス事務局
	「財務データ」 作成依頼	法人本部
6月14日	「淑徳大学の評価の視点」決定	大学自己点検・評価委員会 大学協議会
6月17日	淑徳大学第1回特別研修会 「内部質保証と認証評価 ～3つの方針を中心に」	全教職員
6月28日	「評価の視点」に基づく自己点検・評価 作成説明会	大学自己点検・評価委員会 (大学自己点検・評価委員以外の 担当者に対しては、キャンパスを回って 個別に説明)
	「評価の視点」に基づく自己点検・評価 依頼	大学自己点検・評価委員会、 学部自己点検・評価委員会、 各学科・専攻、各キャンパス事務局
7月21日	「大学基礎データ」 提出締切・以後確認	
	「財務データ」 提出締切・以後確認	
8月9日	「評価の視点」に基づく自己点検・評価に関する質疑	自己点検・評価担当者
8月31日	「評価の視点」に基づく自己点検・評価 提出締切	

日 程	項 目	担当者
29年9月～	「評価の視点」に基づく自己点検・評価 内容・根拠資料等確認整理	認証評価統括室
	「点検・評価報告書」作成	大学自己点検・評価委員会
11月8日	「基礎要件確認シート」(案)を作成し、確認依頼	各学部・事務局
11月16日	「大学評価申請書」 大学基準協会に提出	提出期限:11月末日 (H p.37)
30年1月	「点検・評価報告書」 検討全体会議(2回)	大学自己点検・評価委員会
3月～	「大学評価申請書類」 一式完成 パブリックコメント募集 最終案確定	

3-1-4 申請書類提出後対応

平成30年4月～平成31年2月

日 程	淑徳大学	大学基準協会
30年4月23日	「大学評価申請書類」提出	提出期限:4月27日 (H p.37 4月1日)
5月25日	評価手数料納入	納入期限:5月末 (H p.37)
5月～9月	質問対応、追加資料提出等	書面評価期間 (H p.40)
5月～6月	実地調査日調整	実地調査候補日通知・決定 (H p.40-43)
6月16日	淑徳大学第1回特別研修会(全教職員対象) 「内部質保証システムの構築を目指して —自己点検評価報告書における「問題点」の共有—	
8月8日	淑徳大学第2回特別研修会(役職教職員対象) 「実地調査に向けて」	
9月7日		「大学評価結果(分科会案)」送付 (実地調査5週間前) (H p.42)
9月	「大学評価結果(分科会案)」見解検討 全体会議(2回)	
10月4日	「実地調査前資料(大学評価結果(分科会案)見解・回答)」提出	提出期限:(実地調査10日前まで) (H p.42)
10月15・16日	実施調査対応	実地調査
12月20日		「大学評価結果(委員会案)」送付 (H p.43)
31年1月	「大学評価結果(委員会案)」意見申立	提出期限:1月21日 (H p.43)

日 程	淑徳大学	大学基準協会
平成31年3月	「大学評価結果」受領	「大学評価結果」の通知・公表 (H p.43)
平成31年4月	「大学評価結果」「点検・評価報告書」を大学ホームページに掲載	掲載期限: 平成31年5月1日
2022年7月 末まで	「改善報告書提出」(大学評価結果の「是正勧告」「改善課題」が対象)	提出期限: 大学評価結果受領後3年経過後の7月末まで (H p.45-46)
提出翌年5月		「改善報告書に対する検討結果」の通知・公表 (H p.45-46)

3-2 学内分担

(「5. その他の資料の集約方法」及び提出期限等に変更あり)

資料の種類	資料の詳細	担当者（評価の視点に基づく自己点検・評価）	取りまとめ 担当者	淑徳大学内 提出締切	淑徳大学 最終稿完成	大学基準協会 提出期限
1. 点検・評価報告書	序章	大学自己点検・評価委員会	大学自己点検・ 評価委員会	評価の視点に基づく 自己点検・評価 平成29年8月31日 (根拠資料含む) 取りまとめ 平成29年11月29日	平成30年4月11日 大学協議会承認 平成30年4月19日 学長決裁 ※平成29年度財務 計算書類は会計監 査終了後提出	平成30年4月27日
	第1章 理念・目的	大学自己点検・評価委員会				
	第2章 内部質保証	大学自己点検・評価委員会				
	第3章 教育研究組織	大学自己点検・評価委員会・当該組織				
	第4章 教育課程・学習成果	学科長・専攻主任・ワーキンググループ・担当事務局				
	第5章 学生の受け入れ	学部・研究科自己点検・評価委員会・担当事務局				
	第6章 教員・教員組織	大学自己点検・評価委員会				
	第7章 学生支援	学部・研究科自己点検・評価委員会・担当事務局				
	第8章 教育研究等環境	大学自己点検・評価委員会				
	第9章 社会連携・社会貢献	学部・研究科自己点検・評価委員会・担当事務局・当該組織				
	第10章 大学運営・財務	大学自己点検・評価委員会				
	終章	大学自己点検・評価委員会				
2. 評定一覧	〔様式4〕 評定一覧表	点検・評価報告書の各章担当者		平成30年1月31日		
3. 大学基礎データ	〔様式5〕 大学基礎データ	法人本部事務局、各キャンパス事務局		平成29年7月21日 (根拠資料含む)		
4. 基礎要件確認シート	〔様式6〕 基礎要件確認シート	認証評価統括室		平成30年1月31日		
5. その他の資料	学部・研究科別に作成する資料 のうち指定するもの	点検・評価報告書の各章担当者	認証評価統括 室	平成29年8月31日		点検・評価報告書で 言及するもの 平成30年4月27日
		認証評価統括室		平成30年8月中		上記以外実地調査
	〔様式7〕財務計算書類	法人本部		平成29年9月22日		平成30年4月27日 大学評価実施年度 のものは 会計監査終了後
	上記以外	認証評価統括室		平成30年1月31日		
6. 提出資料一覧	〔様式8〕 提出資料一覧	-		平成30年1月31日		平成30年4月27日

4 評価資料の作成について

4-1 点検・評価報告書 作成の流れ

①大学基準一点検・評価項目一 評価の視点

(大学基準協会) (H p.16-18)



②淑徳大学の評価の視点 設定

(大学自己点検・評価委員会)
(大学協議会) 29.6.14決定
(H p.17-18)



③「評価の視点」に基づく自己点検・評価



自己点検・評価シート



- ①評価の視点ごとに「現状説明」を記述
- ②大学基準ごとに「長所・特色」「問題点」「全体のまとめ」を記述
- ③記述を裏付ける根拠資料を提出

(H p.18-28)

④点検・評価報告書の作成



③を集約した「自己点検・評価シート総括表」(A3 166枚、A4 108枚)を基に作成
(H p.22-30 100～150ページ程度)

⑤大学基準協会へ提出

4-2 「評価の視点に基づく自己点検・評価シート」（淑徳大学例）

①現状説明

(H p.18-28)

基準7 [学生支援]						
A. 評価の視点 (大学基準協会)	B. 評価の視点 (淑徳大学)	C. 項目 番号	D. 評価 (○・ ×)	E. 現状説明	F. 根拠資料	G. 根拠資料 (大学基準協会)
点検・評価項目 ② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。						
○学生支援体制の適切な整備	○学生支援(修学支援、進路支援、生活支援)の責任部署、組織体制、支援体制等が適切に整備されているか。	G2011	○			■ハラスメント防止、学生の相談に応じる制度及び経済的支援制度を学生に周知するための資料 ■キャリア支援に関するガイダンス等の制度と実施状況が分かる資料 ■大学基礎データ(表7) 《参考》 ・学生支援に関する資料として、学生相談室の利用統計データ、学生の満足度や進路の状況などの調査結果など、学生支援の効果に関する資料も考えられます。
	○学生支援の方針は、学生に対する実態調査等を踏まえ策定され、公表されているか。	G2012	○			
	○アドバイザー制度による学生支援の方針と運用体制が整備され、教職協働の仕組みが整えられているか。	G2013	○			

②長所・特色

③問題点

④全体のまとめ

自己評価「評価の視点」に基づく自己点検・評価シート(自己点検・評価シート)【長所・特色】

第1章 (長所・特色) 応答 _____

氏名 _____

【長所・特色】 (シナリオ・アソシエーション) 評価結果もあわせて記入してください。
 各項目の長所・特色を具体的に、評価の観点から記入してください。
 必要に応じて、写真・画像を添付してください。

自己評価「評価の視点」に基づく自己点検・評価シート(自己点検・評価シート)【問題点】

第1章 (問題点) 応答 _____

氏名 _____

【問題点】 (シナリオ・アソシエーション) 評価結果もあわせて記入してください。
 各項目の問題点を具体的に、評価の観点から記入してください。
 必要に応じて、写真・画像を添付してください。

自己評価「評価の視点」に基づく自己点検・評価シート(自己点検・評価シート)【全体のまとめ】

第1章 (全体のまとめ) 応答 _____

氏名 _____

【全体のまとめ】 (シナリオ・アソシエーション) 評価結果もあわせて記入してください。
 各項目の長所・特色を具体的に、評価の観点から記入してください。
 必要に応じて、写真・画像を添付してください。

4-3-1 点検・評価報告書作成の留意点

全学的な観点に基づく自己点検・評価

(H p.18-19)

(第2期 点検・評価報告書 ページ例)

項目A

- 1) 大学全体
- 2) 総合福祉学部
- 3) 国際コミュニケーション学部
- 4) 看護学部
- 5) コミュニティ政策学部
- 6) 通信教育部
- 7) 大学院総合福祉研究科
- 8) 大学院国際経営・文化研究科

第1期 報告書	282ページ
第2期 報告書	159ページ
第3期 報告書	90ページ

(第3期 点検・評価報告書 ページ例)

項目A

(大学全体)

→ ここがポイント

各学部・研究科等が行った自己点検・評価の結果を基に大学全体として現状を捉え、課題を明らかにして改善や向上に向けた対応を記述することが求められる。

単に各学部・研究科の自己点検・評価の結果を集約するだけでは不十分。

大学全体の方針に、どのように取り組み、成果はどうか、それを説明するため学部・研究科の具体例を示す。

4-3-2 点検・評価報告書作成上のポイント

○4キャンパス、6学部11学科の大学であるが、「大学」としての取り組みを記述

○「大学基準」「解説」「点検・評価項目」「評価の視点」を理解する(H p.83-114)

○「判定及び判定保留の基準とその運用指針」(平成31年3月改定)(H p.115-119)、

「基礎要件以外の評価の指針」(平成31年3月)(H p.129-130)、

「評価者の観点」(平成31年3月)(H p.131-145)を理解する

○提出資料全般に関する「大学評価に関するQ & A」もあらかじめ確認しておく

<https://www.juaa.or.jp/accreditation/university/h30/faq.html>

○用語統一ルールを定めて統一を図る

特に学内の固有名詞は、人それぞれ言い方が違うので注意深くチェックする。

(例)・年報・大学年報⇒淑徳大学年報

・学生に配布する手引き・要項等⇒学生便覧等(学部・研究科で名称が異なる)

○年度・日付は間違いやすいので必ず再確認する

4-4 大学基礎データ・基礎要件確認シート作成上のポイント

大学基礎データ

(H p.31,163-175)

- 数値の提出を依頼する場合、その基準(考え方、計算の仕方)を作成し、理解に齟齬が生じないように周知する。
- 数値データを集約する際、全てのデータの根拠資料も同時に提出してもらう。

基礎要件確認シート

(H p.31,176-183)

- 最初に「基礎要件確認シート(案)」を認証評価統括室で作成した。
次に「基礎要件確認シートチェック表」を作成し、各学部・事務局での確認を依頼した。 学部長、研究科長への依頼に際しては、「基礎要件確認シート」の各項目毎にその法的根拠等について説明しながら、修正の有無や内容の確認を行った。
- 「基礎要件に係る評価の指針」(平成31年3月改定)(H p.121-128)を理解する。

4-5-1 根拠資料整備のためのポイント(淑徳大学)

記述したら ⇒ エビデンス！

(H p.31-34、146-153)

- 根拠資料には、大学基準による必須資料と、大学による任意資料がある。
- 点検・評価報告書の記述や数値等の根拠は、必ず提示する必要がある。

○学内にどんな資料があるのか、またその入手方法について理解を深める。

(スタッフ2名はキャンパス間異動の経験があり、ほぼ全ての業務に対する理解があった)

○根拠資料となる大学ウェブサイトの確認(データの更新)。

○点検・評価報告書を完成させるにあたり、不足する根拠資料が発生するので、
随時整備・補充する必要がある。

○本学はWebサイトで各会議の資料が共有されている。

4-5-2 根拠資料管理表(淑徳大学例)

(例) 基準1[理念・目的] 根拠資料管理表 (様式8-1補助資料 必須提出資料チェックシート 関連)

A. 評価の視点(大学基準協会)		G. 根拠資料(大学基準協会)	a: 必須資料 ●は《参考資料》	b: 任意の根拠資料
基準1 [理念・目的]				
点検・評価項目 ① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。				
○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容	1-①	■寄附行為又は定款 ■学則、大学院学則又は教育研究上の目的を規定したその他の規程 ■大学、学部・研究科を紹介するパンフレット ■大学及び学部・研究科の理念・目的を公表しているウェブサイト	a1 ■学園規程 寄付行為 a2 ■学則 a3 ■大学院学則 a4 ■大学規程 淑徳大学 教育に関する規則 a5 ■大学規程 淑徳大学 大学院の教育研究に関する規則 a6 ■淑徳大学GUIDE BOOK 2018 a7 ■淑徳大学大学院総合福祉研究科 GUIDE BOOK 2018 a8 ■淑徳大学大学院看護学研究科看護学専攻 2018 a9 ■[教育情報の公表] http://www.shukutoku.ac.jp/university/discloseinfo/#kouhyou_01	b1-1・基本計画書(学部) b1-2・基本計画書(大学院) b2・教育研究上の基本組織
○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の関連性				
点検・評価項目 ② 大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。				
○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示	1-②	■寄附行為又は定款 ■学則、大学院学則又は教育研究上の目的を規定したその他の規程 ■大学、学部・研究科を紹介するパンフレット ■大学及び学部・研究科の理念・目的を公表しているウェブサイト	a1 ■学園規程 寄付行為 a2 ■学則 a3 ■大学院学則 a4 ■大学規程 淑徳大学 教育に関する規則 a5 ■大学規程 淑徳大学 大学院の教育研究に関する規則 a6 ■淑徳大学GUIDE BOOK 2018 a7 ■淑徳大学大学院総合福祉研究科 GUIDE BOOK 2018 a8 ■淑徳大学大学院看護学研究科看護学専攻 2018 a9 ■[教育情報の公表] http://www.shukutoku.ac.jp/university/discloseinfo/#kouhyou_01	b3・建学の精神と入学式について(埼玉) b4・建学の精神ウェブサイト http://www.shukutoku.ac.jp/university/shukutoku/spirit/ b5・教本
○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表				
点検・評価項目 ③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。				
○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定	1-③	■アクションプランや中長期計画など将来を見据えた計画等にわたるもの	a10 ■大乗淑徳学園 中期計画書(平成30～34年度)大学の部分	b6・大学ヴィジョン関連資料 a159・成果指標関連資料

A: 大学基準 評価の視点 (H p.107-114)

G: 大学基準が指示する根拠資料(■は必須資料、《参考》は提出資料の例) (H p.146-153)

a: Gにより提出を求められた根拠資料に対し、本学が提出した資料

b: 本学が任意に提出する資料

※ 「a」「b」は、全ての基準を通して連番で管理、別途リスト作成

4-6 大学評価資料

大学基準協会に平成30年4月23日に提出 **(2020年度大学評価では、4月1日が提出締切！)**

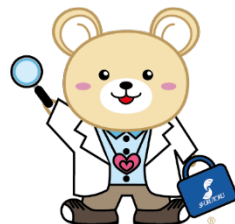
提出資料	備 考
①点検・評価報告書	表紙を含めて92ページ
②評定一覧表(様式4)	
③大学基礎データ(様式5)	
④基礎要件確認シート(様式6)	
⑤その他の根拠資料 財務計算書類	HPを含めて402種類 (規程集については、区分毎に1種類カウント) 平成24年度～28年度 (29年度は監査後提出)
⑥提出資料一覧(様式8-1)	



4-7 適合判定

平成31年3月26日に「適合」判定が公表された





ご清聴ありがとうございました



淑徳大学公式キャラクター SHUKUTOKUMA(しゅくとくま)